

session of the United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation, New York October 1956. (A/AC. 82/G/R. 35, Oct. 1956)

- 米 国: N. A. Halden, J. H. Harley: Method of calculating infinity gamma dose from beta measurements on gummed film. Feb. 1956. Laboratory Report (A/AC. 82/INF. I. App. III Apr. 1956)
- M. Eisenbud, J. H. Harley: Radioactive fallout through September 1955. June 13, 1956. (A/AC. 82/G/R. 7, Aug. 1956.)
- J. H. Harley, M. Eisenbud et al: Summary of analytical results from the HASL Strontium Program to June 1956. Aug. 31, 1956. U. S. A. E. C. New York Operation Office. (A/AC. 82/G/R. 22, Oct. 1956.)
- National Academy of Science: The biological effects of atomic radiation. (A/AC. 82/G/R. 1, 1956)
- Chicago University: Project Sunshine Bulletin, No. 12. (A/AC. 82/G/R. 21,

Aug. 1956.)

- 英 国: N. G. Stewart et al: The radiological dose to persons in the U.K. due to debris from nuclear test explosions prior to January 1956. (A/AC. 82/G/R. 20, Sept. 1956.)
- F. J. Bryant et al: Radiostromium fall-out in biological materials in Britain. (A/AC. 82/G/R. 30 Oct. 1956.)
- Medical Research Council: The hazards to man of nuclear and allied radiations. June 1956. (A/AC. 82/G/R. 2, June 1956.)
- 瑞 典: B. Aler et al: Radioactive fallout from atomic weapon tests. (A/AC. 82/G/R. 15, No. 9, July 1956.)
- 日 本: Japan Met. Agency: Report on the systematic observations of the atmospheric radioactivity in Japan. (A/AC. 82/G/R. 4 part 5. Aug. 1956.)
- カナダ: Department of National Health and Welfare: Levels of Strontium 90 in Canada. Aug. 1956 (A/AC. 82/G/R. 12, Aug. 1956)

毎日新聞社本山社長と気象

気象は物理学などちがって、比較的大衆性がある。そこで素人の愛好者によって育てられた分野もかなりあるようである。その中の一つ、毎日新聞社本山社長の功労も大きいものがある。上田正二郎氏「統あの頃その頃」(東京書店昭和27年刊)によると、次のようである。余白を借りて抄録しておきたい。

「滋賀県の彦根測候所長に前田末広さんというのがあって、この前田さんが何かの機会から本山さんと近づきになり、大正8年に伊吹山高層気流観測所の設立を本山さんに提案したところ、当時はまだ航空機の発達が幼稚だったので、それはよかろう、航空機の発達の一援助になるからといって建設費の寄贈を引受けた」「その後前田末広氏は長崎の測候所長に転進したが、今度は温泉カ岳に高層気流観測所の設置と富江観測所の設置を提案し、これまた本山さんの援助によって大正10年に建設を見た」又その「前年の9月には立山の高層気流観測所の建設費に一役をつとめている」

「その後、前田さんはどうした縁か遂に大阪測候所長として赴任、前田さんの喜びは勿論だが、本山さんも前田さんの来任にことのほかの喜びである。するとこん度

は、築港や天王寺のお勝山では大都会の真の上空の気流は観測できないとあって、前田さんを顧問役にして堂島本社の屋上に観測所を設置した。現在毎日本社屋上に高く聳える塔が即ちそれである」「本山さんはまた大都会の周囲にも観測所を設置する必要ありと提唱し、六甲(ろっこう)と信貴山(しぎさん)にも簡易観測所を設置した」

「本山さんはそればかりではない。大正13年に、雨量の多いので知られている熊野川、吉野川、北山川の水源をなす大和の大台カ原山の雨量観測所へ電話架設費を寄付し」「洪水警報を出すに便ならしめたのである。前記三川の流木被害は年々夥しいものであったが、それが電話の架設によってあらかじめ増水の見当がつくので、木材業者から非常に喜ばれた」「その後昭和10年になって山麓との連絡は無線によって、大和の八木測候所と連絡することになったが、この山上の測候所は今も大いに役立ち、正確な記録に基づいて洪水警報をだし、木材業者から非常に感謝されている」

「ワンマンの本山さんは敢えて新聞事業だけでなく、こうした治水方面にも科学することを楽しみにした」こうした事実は散逸しないうちにまとめておきたいものだと思う。(HK)